

家族と仕事

北京・ソウルと日本の比較

お茶の水女子大学COEプログラム

F-GENSパネル調査より

第16回厚生政策セミナー

東アジアの少子化のゆくえ—要因と政策対応の共通性と異質性をさぐる

お茶の水女子大学大学院教授

永瀬伸子

- **使用データ**

お茶の水女子大学21世紀COEプログラム

F-GENSパネル中国（北京）調査

サンプル数 2250

2004－2007年

F-GENSパネル韓国（ソウル）調査

サンプル数 1716

2003年 - 2007年

国立社会保障人口問題研究所

第12回出生動向基本調査 2002年

家計経済研究所

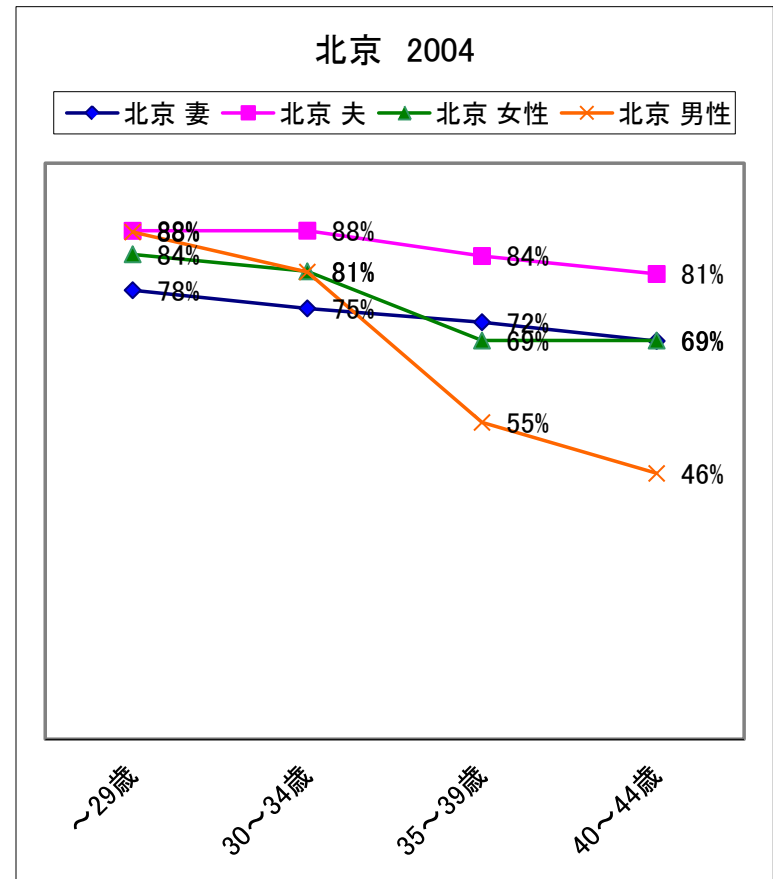
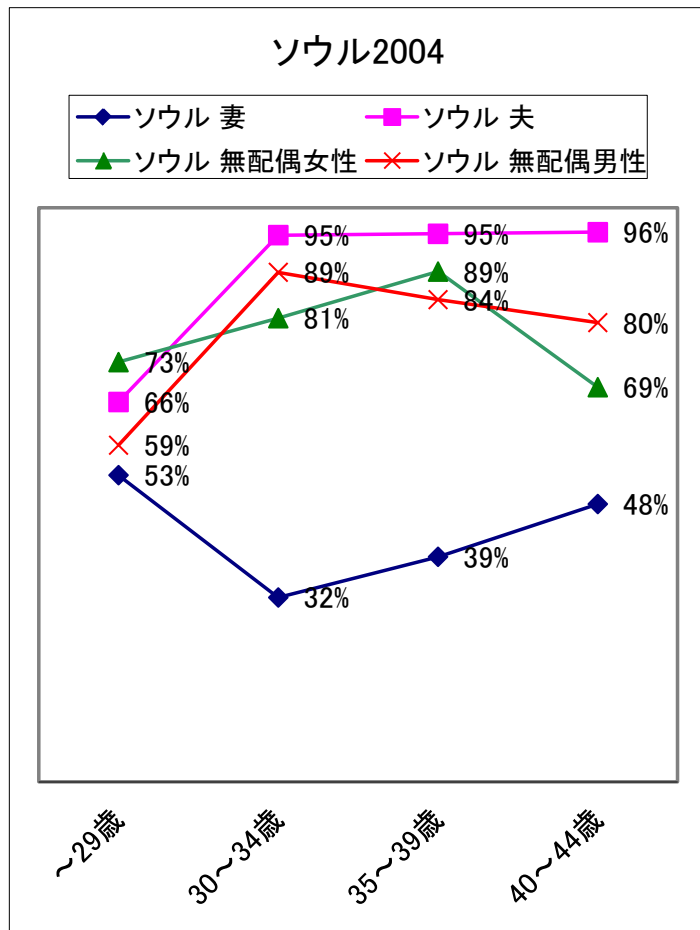
消費生活に関するパネル調査 2002年

◎**成果の一部は**

篠塚英子・永瀬伸子編『少子化とエコノミー：パネル調査で描く東アジア』作品社 2008年 をご覧ください。

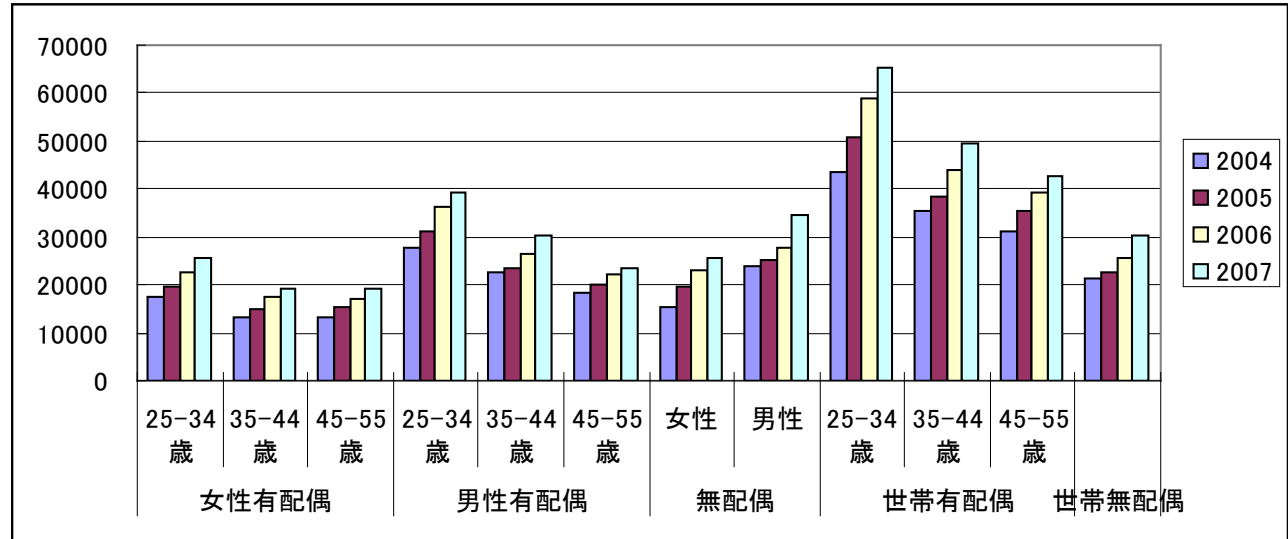
1. 家計における妻の稼得役割

有配偶と無配偶の労働力率 2004

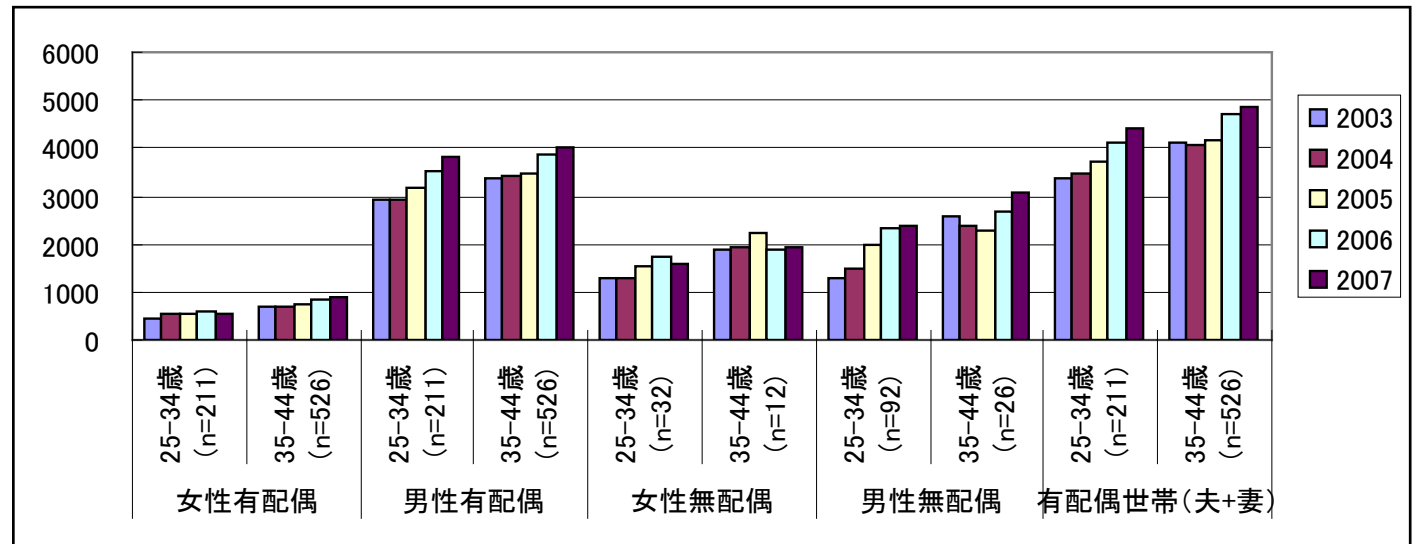


北京（上） ソウル（下） のパネル調査期間の属性別年収の推移

北京・年収の男女差はあるがさほど大きくはない。若い有配偶（夫婦共働き）世帯で大きく年収増加



ソウル・年収の男女差が大きく、賃金も年功的であり、男性の賃金上昇に生活水準が依存、日本と類似



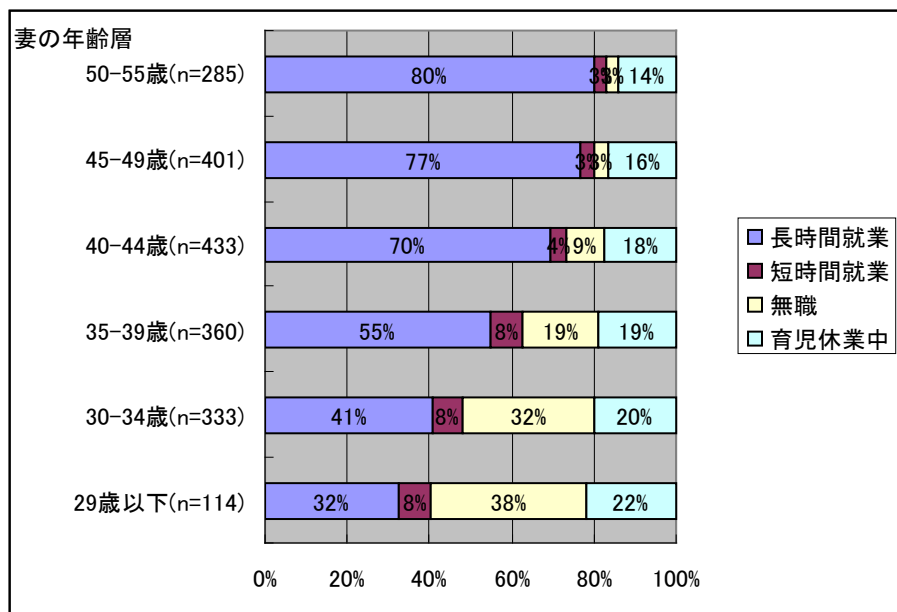
- **男女の就業が前提の北京（夫のみならず妻の収入も家計に重要であり不可欠）**

- **男女および婚姻状況で就業状態と賃金水準が大きく異なる日本とソウル（夫婦の場合、男性が主な稼ぎ手となり女性は無業もしくは従な稼ぎ手。男女賃金差も大きく、女性賃金率が低いため女性は従な稼ぎ手にとどまる）**

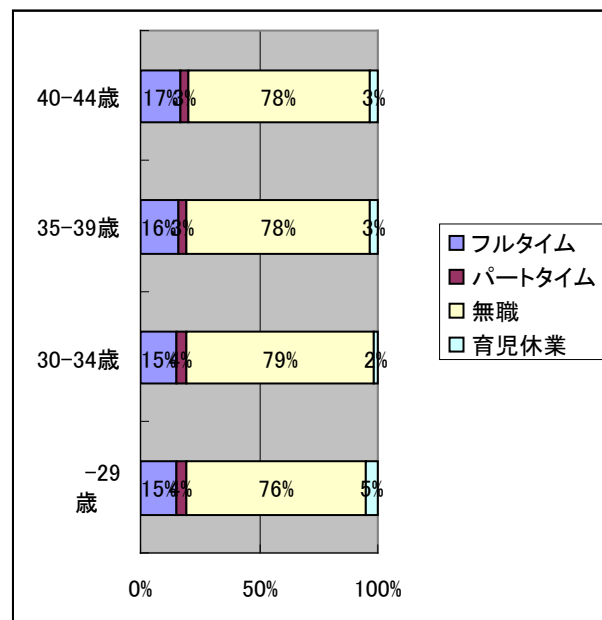
2. 第1子の出産と女性の就業

出産後については北京で近年無職化進行
ソウルでは世代差が小さく、日本と類似

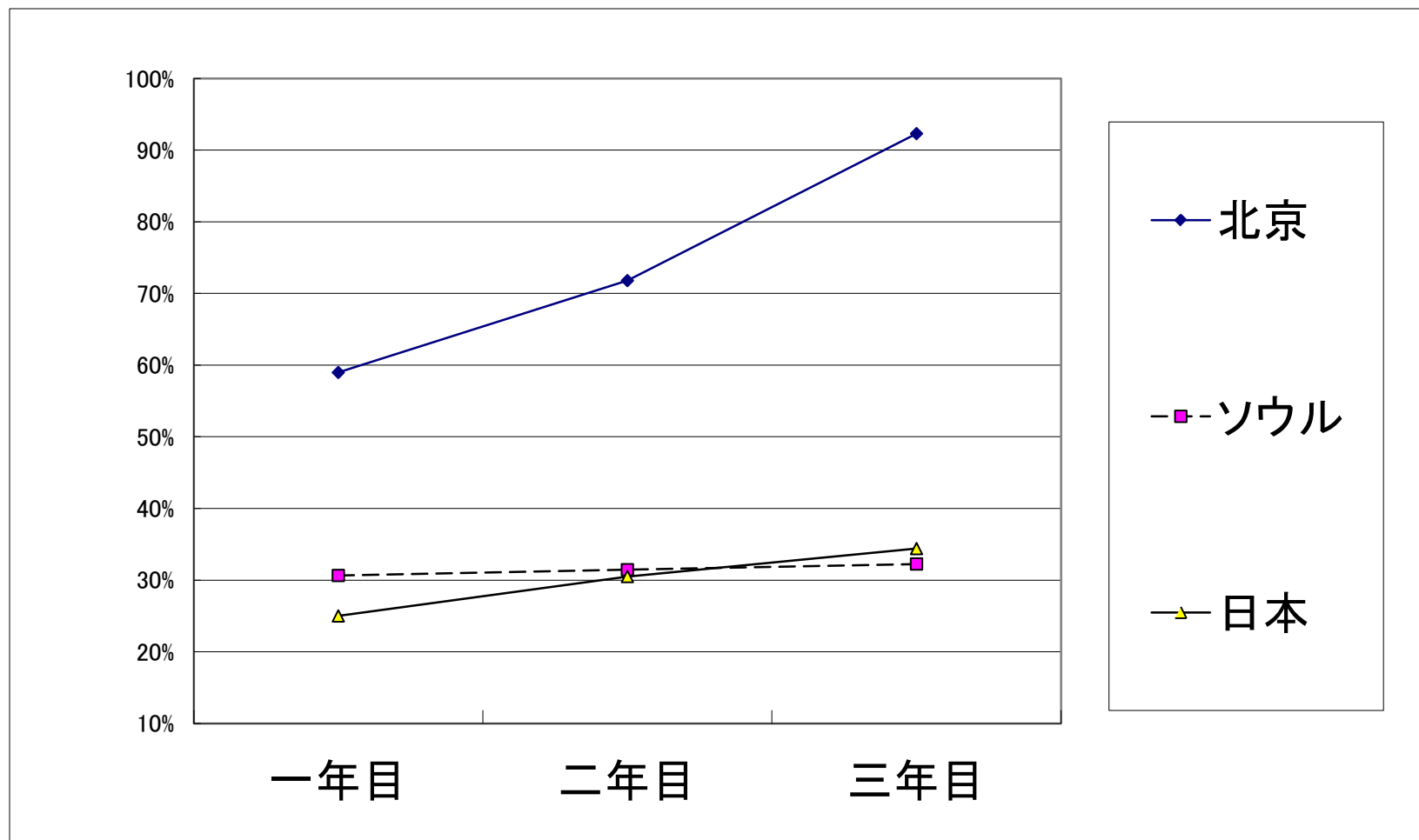
北京



ソウル

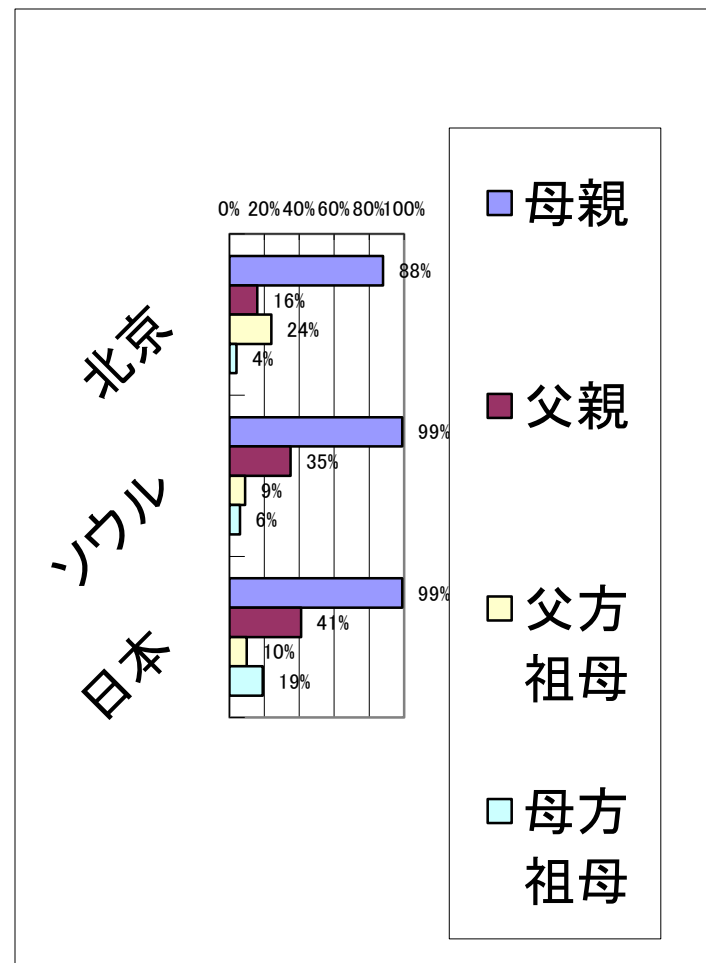
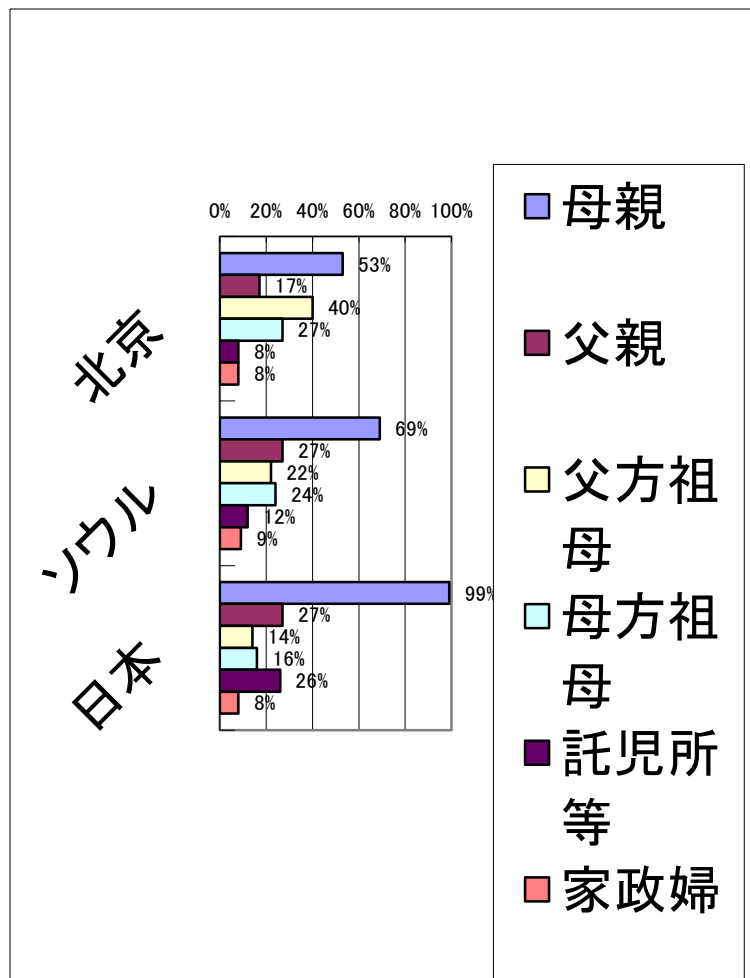


出産後の母親の労働市場への復帰



3. 子どものケアとネットワーク、社会資源

子が1歳の時のケア（有業・無業）

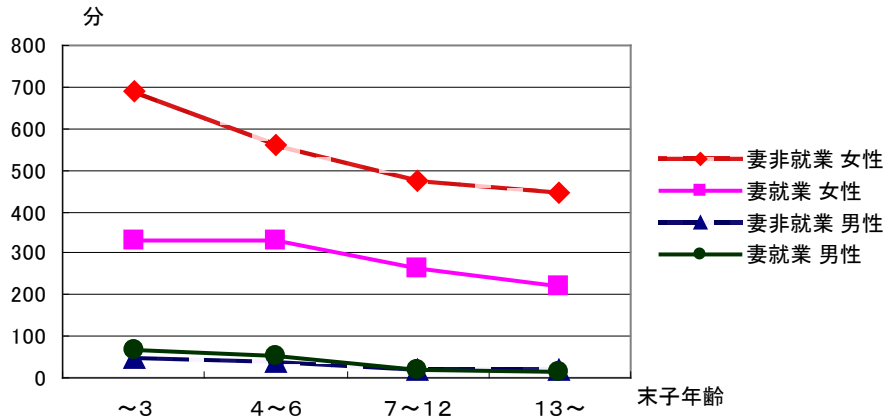


- **北京**：就業継続者が多い。若年層では無職者も増える傾向があるが復帰は早い。祖母の育児役割が拡大している。育児休業も2割。
- **ソウル**：女性の8割が第1子1歳時に無業、母親学歴：大学院卒のみ就業継続率が高い。保育園の不足。
- **日本人口集中地区**：女性の8割が第1子1歳時に無業。高学歴ほど計量分析では就業継続率は高いが、素データでは差は小さい。同居祖母による育児役割は縮小しつつあり、保育園の不足が指摘されつつも保育園が大きい役割を果たしている。

4. 夫婦の家事時間

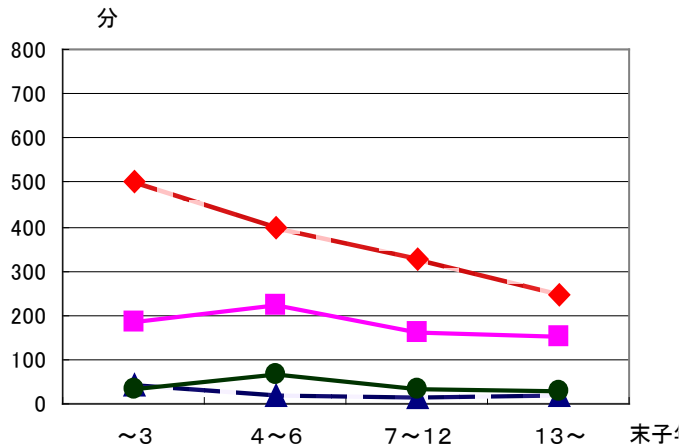
家事・ケア時間の男女格差：日 中韓比較

家事・育児時間(日本、平日)

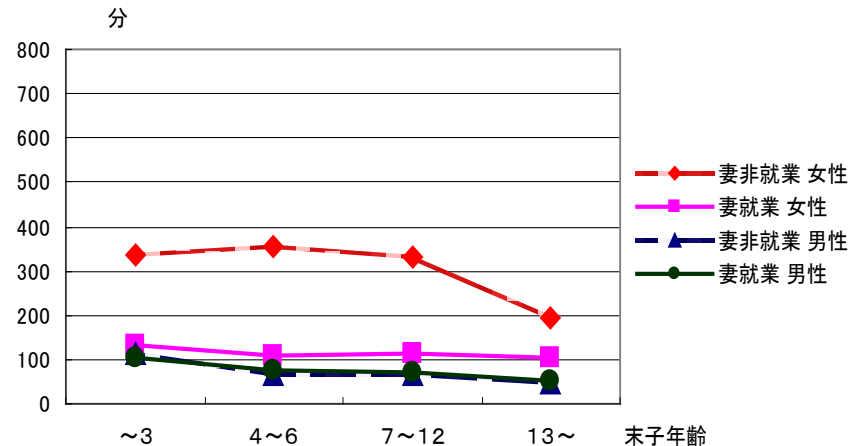


就業・非就業ともに、女性の家事・ケア負担が最も重いのが日本。

家事・ケア時間(韓国、平日)

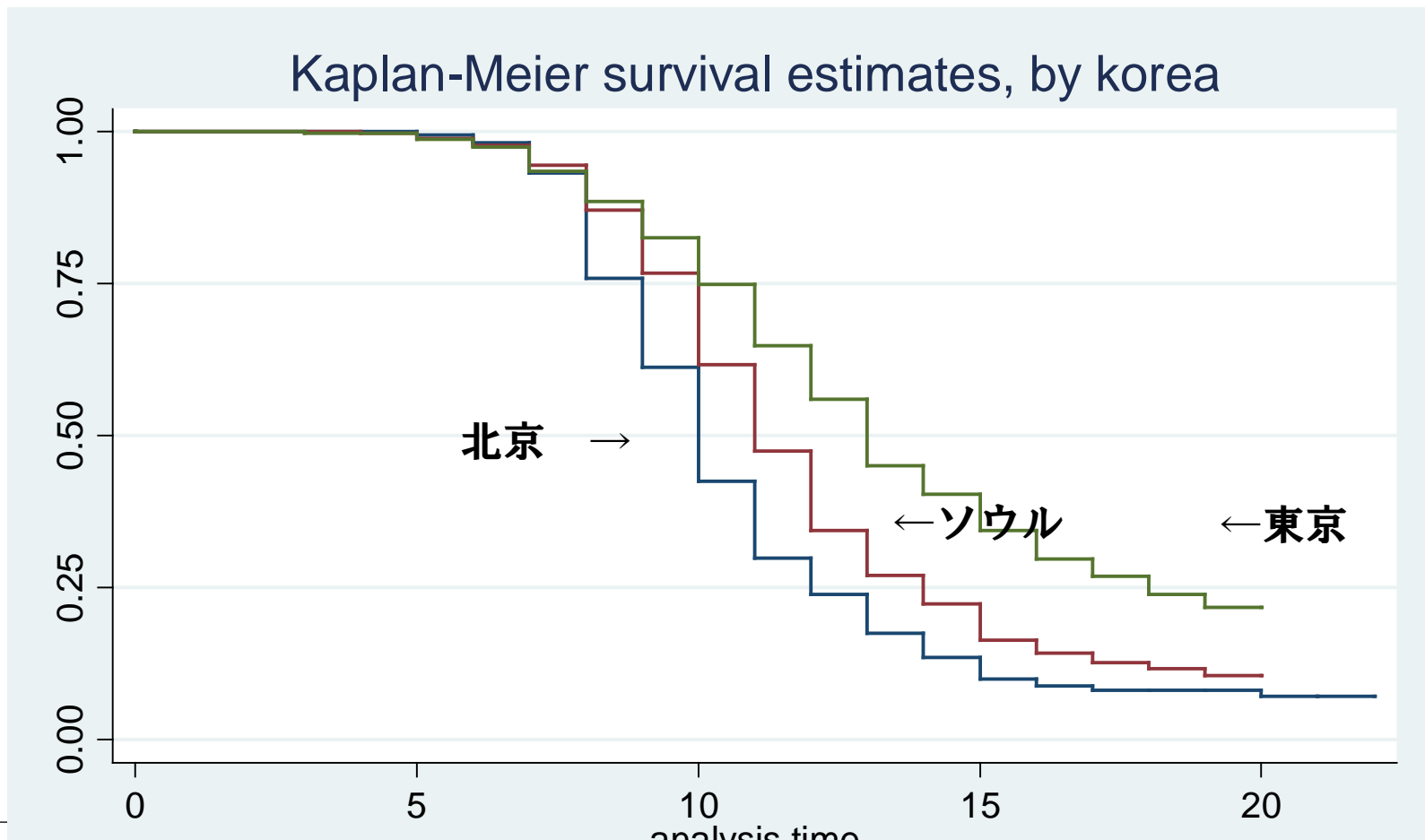


家事・ケア時間(中国、平日)

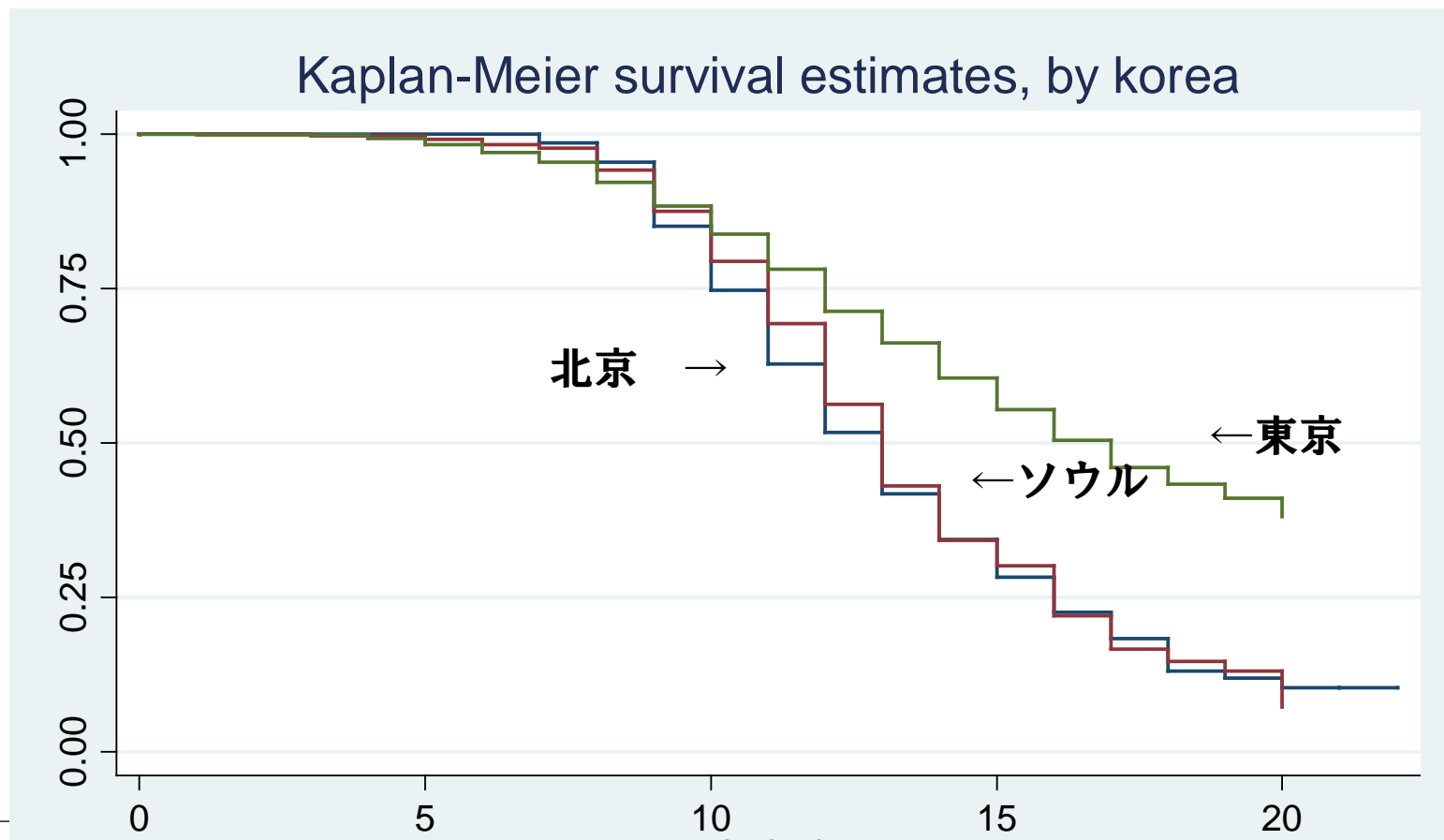


5. 出生行動

婚姻への移行 サンプル全体、35歳まで
(15歳から経過時間、目盛0は15歳)
北京は25歳で女性の約半数が婚姻、東京35歳時
点で4人に1人が単身



母親への移行 調査時点で35歳以下世代に限定
(15歳から経過時間 目盛20は35歳)
北京、ソウルは30歳で女性の4人に3人が出産、東京は3人に2人



- **韓国**の合計特殊出生率の低下が注目されるが、これは世代による婚姻行動の変化を反映したものの。1997年の金融危機時点で出産していなかった者の出産が遅れ、出産年齢の変化が起きた。しかし現状で無子女性が大幅に増えているわけではない。
- **中国**は一人っ子政策が注目されているが、都市部は一人っ子政策、しかし非婚、無子が多いわけではない。また農村部の出産意欲はまだまだ高い。
- **日本**の少子化は長期に続いている。北京やソウルと異なり子どもを持たない女性が増えている。日本の男女賃金差が大きいままであり、低賃金のシングル女性が増えるとすれば、30年後には子供のない者の増加により、北京やソウルと異なる大きい問題を抱えることになるだろう。

共通性と差異

- はしっ
でかも
アシア
は北京
強い、
東強、
合系残
場父然
のは依
業にも
有的に
が統っ
親伝あ
母。で
る居
えれ別
いさは
は容ル
と受ウ
るくソ
い広り
でがま
ん割弱
進役は
が児系
化育父
族のは
家母本
核祖日
- 日か
北京に
は「由
の「足
の「差
高の金
に度賃
實際に
2割程
ありは
あ人差
で収の
須の造
必性構
上女の
計て場
生し市
が対働
加に労
場家れ
市場は
市はこ
働ル。
のソな
親、ら
母本な
- 母ある
北京も
弱い。北
だ弱い。も
も弱状況
はも弱
はと弱
韓も弱
でつる上
日が励
京奨育
北を保
浸透と
はくこ
で高る
京も高
北とに
がっ手
想もい
思で担
う本の
い日退
とは育
き感子
べ任が
く責母
働児父
性のも
女親で
- 家働就
もがの
そ性親
も女母
も母革
はでの
で国な
京の戦
北どわ
り。か
あさま
り。か
あさま
で小あ
順がは
の差間
京女時
北男事
め家の
、め家
ソな男
、少で
日がか
は間う
時間時
時すか
事やると
家費い
のにて
妻事い
- 婚姻高
は、ソ
ソウル
北京、
高第1
がも第
性とも
女と
子な
無少
、無少
出多
、出多
はよ
本本
日本
日日本
動行
行移
生の
出へい